

食産業の発展をめざす 食でとことんプロジェクト

前

号から紹介している、「青森県基本計画 未来を変える挑戦」で重点的に取り組む3つの戦略プロジェクトの1つが「食でとことんプロジェクト」です。

このプロジェクトのめざすところは、食産業で稼ぐこと。そのためには、食産業の発展と青森県産品の総合的な価値を高めることが必要となります。

※県では、農林水産物の生産のみならず、流通・販売・加工・料理の提供までを含めて「食産業」としています。

「4つの柱」を極め、 食産業をとことん極める

プロジェクトでは、豊富な農林水産資源や、これまで築き上げてきた、水・土・人などのしっかりとした基盤などの強みをとことん生



人づくりをとことん極め、働く場をつくり、そして所得向上をめざします。

これは、生産から加工までを含めた商品力を高め、国内外問わず、より良い売れるモノをつくること。同時に生産基盤となる水や土などの環境への配慮や、安全・安心

かして、「食といえば青森県」といわれるようになるため、「4つの柱」を極めることとしました。

1「食の生産力・商品力を極める」

バランスのとれた生産力をとことん極め、高品質な青森県産品を安定的に供給できる体制を整えます。

2「食の販売力を極める」

他県を上回る成長を続けている販売力をとことん極め、さらに国内外へ販路を拡大していきます。

3「安全・安心で

環境にやさしい食を極める」
きれいな水や、健康な土などの基盤づくりをとことん極め、そこで育つ安全・安心な県産品を消費者に届ける体制を強化します。

4「食を支える人づくりを極める」

食産業をけん引する意欲のある

10月の「食でとことんプロジェクト」 関連番組放送予定

放送局	番組名・放送時間	放送日・テーマ
青森放送	大好き、青森県。 17:00~17:15	10月19日(日) 食の強みをとことん極める挑戦者
青森テレビ	みんなの県庁! 『知事が出演』 18:55~19:00	10月4日(土) 申吾が行く! ~青森フェアでおいしさ発信~
	こんにちは、県庁です。 県職員が生解説「おしゃべりハウス」(10:00~10:55)内で放送	9月29日(月) 「食でとことんプロジェクト」って何ですか?
青森朝日放送	メッセージ 2回シリーズでお届け 9:30~9:35	10月4日(土) 青森県食品衛生自主衛生管理認証制度について 10月11日(土) お米の新品種「青系187号」

の確保対策を強化する。そして、これらを最終的に支える生産、加工、販売など食産業に携わる人財を育て、県産品の価値を総合的に高めていく。そのことが、青森県の食産業の発展につながる。と考えると、取組を続けています。

4・5ページでは、本県の代表的な農産物であるりんごを巡って、とことんこだわりの、それぞれの分野で意欲的に取り組む、食の可能性に挑戦し続けている方々から、絶え間ない努力とその思いを伺ってきました。

めざせ！ 特A米！ 青森の米を全国ブランドに！

青 森の米はおいしくて値頃感があることから、県外においても業務用米として一定の評価を得てきました。しかし、「一般財団法人日本穀物検定協会」が毎年発表している食味ランキングでは、北海道と東北エリアで唯一、最高の「特A」評価が得られていません。

そこで、県では「特A」評価取得をめざすため、今年2月に新品種として「青系187号」を選定し、現在、全国に通用するブランド品種となるよう、生産・宣伝・販売対策の検討を進めています。

新品種誕生まで約10年 青系187号が生まれるまで

米 の新品種の誕生までには、およそ10年の歳月と多くの人手がかかります。青森県産業技術センター農林総合研究所で、「青系187号」の品種改良を始めたのは2006年のこと。多くの品種の中から良食味、高品質で耐冷性、耐病性、倒れにくさなどの目標に合う特徴を持つ品種を両親に選び、毎年約150

の組合せで交配を行います。その後、交配してできた種子を温室の中で2年で4回育て、3年目からは稲を田んぼに植え、さまざまな検定・調査を行い、目標に合った個体・系統の選抜を繰り返します。そして最終的に1系統に絞り、初めて新品種の誕生となります。1つの品種誕生の陰には、交配に使った親、更にその親の親と何代にもさかのぼる稲の親たち、そして脈々とつながる研究の積み重ねがあるのです。

「青系187号」は、うまみとコシがあつておいしく、また育てやすい品種です。「これまでで一番期待をもっています」と27年間稲一筋で開発に携わった青森県産業技術センターの須藤水稲品種開発部長は語ります。

今年10月末には米の名称が決定する予定で、県主催のイベントなどでの試食提供も検討しています。そして、いよいよ来年秋には市場デビュー。「特A」評価取得が、「青森のお米はおいしい」という消費者の評価が高まるきっかけとなり、既存品種のけん引役として県産米全体の評価を引き上げていくことを期待しています。



【品種開発に携わった方】
地方独立行政法人青森県産業技術センター
農林総合研究所水稲品種開発部長
須藤 充さん



交配の準備作業